

九中図書館だより

文京区立第九中学校図書館

令和4年6月 第3号

学校図書館支援員 蛭田康寿子



6月6日に気象庁から、関東甲信地方の梅雨入りが発表されました。これは前年より8日早く、平年より1日早い梅雨入りだそうです。

雨の日が続くと、外で遊べない、登下校が大変、じめじめした湿気が嫌・・・などなど、気分が沈みがちなことが多いですが、そんな時には気分転換に読書はいかがでしょうか。

雨が降るなら水に親しんでしまえ！と、図書館前の廊下には、水に関する本を揃えてみました。雨の音をBGMに、図書館や家でゆっくり本を読む時間をつくってみてください。



九中図書館 利用案内

開館日 月曜日 ~ 金曜日
開館時間 昼休み 13:00~13:20
放課後 学活終了後~16:30
貸出冊数 2冊まで 貸出期間 2週間まで

支援員在室曜日は
月・火・木・金
在室時間は
11:30~16:30
※行事や授業によって
変更になることがあります



図書館からのオススメ本



『地層のきほん』目代邦康・笹岡美穂著

誠文堂新光社 【45 円】

河原や海岸、山や崖などでシマシマになった土の層を見たことはありませんか？それが「地層」です。

地層全体のことがわかると、大陸の動きや火山の噴火など、地球の活動までわかるのですが、人類が地層から過去の環境を読み解くようになったのは、ほんの数百年前からなのです。

人類が誕生する以前～現在の地球の歴史について、この本で少し触れてみませんか。



6月は水道ふれあい月間です

私たちが生活するためにはなくてはならない「水」。

東京都では、6月を「水道ふれあい月間」と制定し、水道に親しんでもらうイベントなどを行うそうです。

その水道月間にちなんで、九中図書館では、「水」に関する掲示とそれに関連する本を展示しています。社会科や理科、環境についての学習にもなるので、ぜひ見に行ってください。



『水中の小さな生き物けんさくブック』

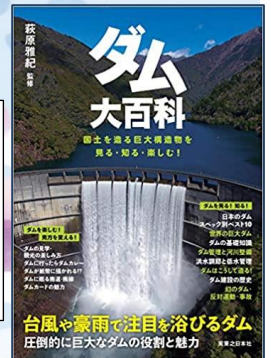
『水中の小さな生き物けんさくブック』編集委員会著 仮説社【46 ス】

「小さな生き物」とは微生物のこと。この本のすごいところは、1ページごとについているQRコードで実際の動きが見られること。貸出必須本です！

『ダム大百科 国土を造る巨大構造物を見る・知る・楽しむ！』

荻原雅紀監修 実業之日本社【51 ダ】

ダム愛好家たちの心のこもった文章、多数の写真、ダム関連の映画や文芸作品、ダムキャラグッズなど、ダムに興味がある人もない人も楽しめる1冊です。



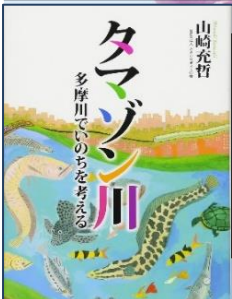
『コンビニ弁当 16万キロの旅: 食べものが世界を変えている』

コンビニ弁当探偵団著 千葉保監修 太郎次郎社エディタス【58 コ】

「バーチャルウォーター」という考え方を知っていますか？コンビニ弁当を食べるまでに、どれだけの水が使われているか…。日本の食糧事情問題を、まず「知る」ことから始めてみましょう。

『地球ものがたり海のうえに暮らす』 関野吉晴著 ほるぷ出版【38 セ】

インドネシアやフィリピン近海の海上で暮らす、漂流民バジョと呼ばれる人々のお話です。海の恵みを受け、その日暮らしをしている家族や子どもたちの笑顔は、本当にまぶしいです。



『タマゾン川 多摩川でいのちを考える』 山崎充哲著 旬報社【51 ヤ】

かつて「死の川」と呼ばれるほど汚染されていた多摩川は、当時の人たちの努力で奇跡の復活を遂げます。しかし現在、「タマゾン」と呼ばれてしまうほどの外来種の放流に悩まされ…。多摩川の歴史を通し、環境について考えさせられます。